



# 「和解の務め」音信

Ministry of Reconciliation in South Africa

(20-2)

Jun. 2020

金煥・朴貞玉

「神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました」(Ⅱコリント 5:18)



礼拝に参加した子どもたち

全世界が新型コロナウイルスによるパンデミックで苦しんでいるこの時、神の御助けと守りが宣教同労者の皆さまに豊かに臨まれることをお祈りいたします。去る2月11日、ステレンボシユからポチエフストロムに到着し、以前と異なる環境で新しい生活を始めました。1993年ここを出発してから27年ぶりに戻って来たことになりました。記憶では以前結構綺麗な町でしたが、現在、道路はあちこちに穴があり、ほとんど隔たりと壁がなかった住宅には丈夫なフェンスが設置されています。原住民の人々が数人群を造って大きい声で話しながら町を闊歩しているのが以前と確実に違う風景です。びつくりするのは、売りに出されている住宅が数えきれないほどあるということです。



農場教会の聖餐礼拝の後

新しい環境で暫くは以前留学生の時代にお世話になった教会に出席することにしました。以前はポチエフストロム北教会でしたが、教会経営の問題で近隣の同じ教団の教会と合同してポチエフストロム・ブルト教会になっていました。知らない人も多く、当時40代だった壮年たちは今70代の老人になっていました。なお、当時はアフリカンス語礼拝のみでしたが、現在は英語の国際部、午後の韓国語部もあり、この頃、原住民のツワナ語礼拝も始まりました。以前は考えられない変化が生じたのです。

1. ポチエフストロム・ブルト教会の変化

暫く経ってから3月8日、このポチエフストロム・ブルト教会が行っている宣教活動に参加してみました。留学生時代、この教会を牧会して今は引退しているベン・デクラック(Ben DeKraak)師が私たちに同行することを呼び掛けてくれました。この活動は、主にペンタスクリール地域の農場に住んでいる原住民労働者たちの礼拝と信仰育成を助ける働きです。私たちも以前別の地域の農場でこういった働きに参加したことがありません。今回尋ねた農場教会はかなりの綺麗な会堂を持っており、会堂の周りに4、5棟の住宅もありました。ベン・デクラック師によると、こちらの神学校で留学して帰国した、ある牧師の教会から献金が送られ、このような会堂と住宅の建設ができたということです。近隣の幾つかの農場からも人々が参加し、2時間以上の長い礼拝を捧げていました。丁度その主日は担任牧師が来る日で聖餐式も行われまし

2. ペンタスクリールの農場教会への訪問

た。担任牧師はツワナ部族の出身で幾つかの教会を牧会しているので月1回、或いは隔月で来るそうです。それ以外の主日にはその農場に住んでいる信徒リーダー(長老)が牧師の説教文を朗読する形で礼拝を進めるということです。礼拝は賛美が多く、大変面白い雰囲気でした。ここで私たちは教職者のみならず信徒リーダーの育成も教会形成と存続のためには大変重要であり、効果があることを覚えられました。その後直ぐロックダウンに入り、続けての参加が困難になりましたが、これから頻繁に参加してみたいと思っております。

ロックダウンの故に、進めて参りました幾つかの働きが暫く中断されているところです。この期間、内面的な準備をして、ロックダウンが解除される時、その働きが順調に再開されることを祈っております。皆さまの尊いご加禱を宜しくお願い致します。皆さまに三位一体の神からの平安をお祈りいたします。